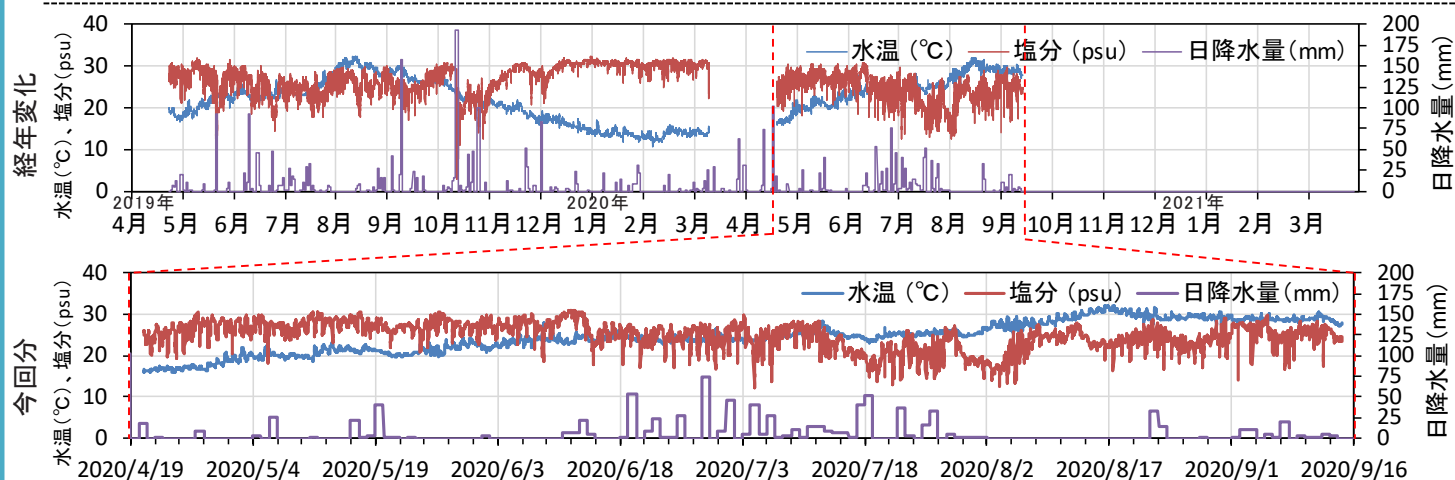
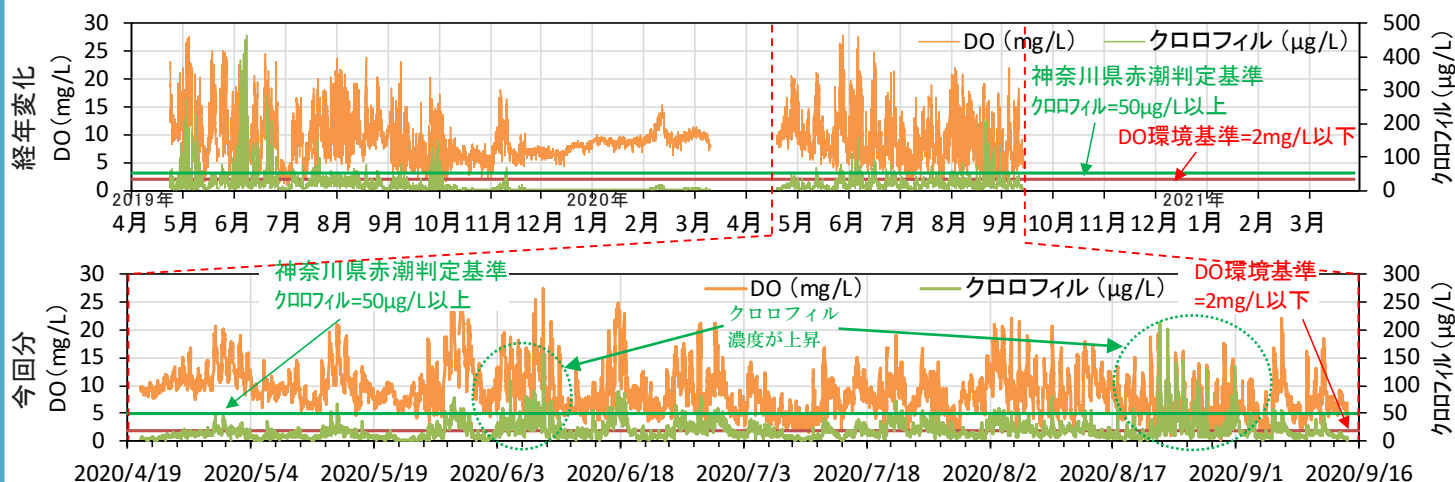


<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

5月～9月に見られた生き物抜粋

「潮彩の渚」水質調査結果(4/20～9/14)

- ・潮彩の渚に水質計を設置して、水質を継続的に測定しています。本号では4月20日から9月14日の結果を示します。
- ・植物プランクトン量を確認できるクロロフィル濃度は、赤潮判定基準の一つになっています。クロロフィル濃度が基準値の50 $\mu\text{g/L}$ を超えた日は、147日中46日で、最大値は211 $\mu\text{g/L}$ でした。
 昨年と同じ期間では、クロロフィル濃度が基準値の50 $\mu\text{g/L}$ を超えた日は、145日中64日で、最大値は462 $\mu\text{g/L}$ でした。
 昨年と比較すると、今年はクロロフィル濃度が低い傾向がみられます。
- ・海水中の溶存酸素(DO)濃度が低下すると、魚や貝など様々な生物に悪影響を及ぼします。溶存酸素(DO)濃度が環境基準の2mg/Lを下回った日(貧酸素状態)は、147日中12日で、最小値は0.2mg/Lでした。
 昨年と同じ期間では、溶存酸素(DO)濃度が環境基準の2mg/Lを下回った日(貧酸素状態)は、145日中10日で、最小値は1.0mg/Lでした。昨年と比較すると、今年は4月から7月にかけて溶存酸素(DO)濃度は高い傾向がみられましたが、8月下旬には溶存酸素(DO)濃度はやや低くなる傾向がみられます。



出典:過去の気象データ(降水量の日合計), 気象庁
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>

コラム:潮彩の渚のアサリの季節変動の特徴

- ・東京湾のアサリは春と秋の二度産卵することが知られています。
- ・このため、潮彩の渚では、春と秋にアサリの稚貝が加入し個体数が増加します。
- ・一方で、東京湾では、夏に貧酸素水塊が発生します。アサリは、比較的、貧酸素には強い種ですが、長い時間貧酸素水塊にさらされると耐え切れずに死んでしまいます。
- ・潮彩の渚の周辺海域でも、「水質調査結果」に示すとおり、7月から10月にかけて貧酸素水塊が発生するため、アサリの個体数は減少してしまいます。
- ・冬になると、潮彩の渚の周辺海域は、透明度が高くなり海底が見えるようになります。これは、海水温の低下に伴い、アサリの餌となる植物プランクトンが少なくなったためです。
- ・このため、潮彩の渚のアサリは、冬には餌が不足した状態となります。低水温の影響と相まって、いくつかの個体は死んでしまい、個体数が再び減少します。

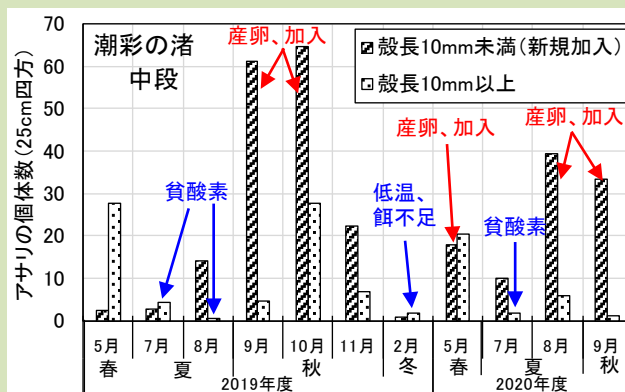


図 潮彩の渚の昨年度と今年度のアサリの個体数(季節変化)